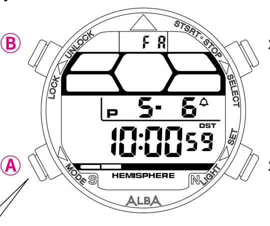
■ボタンの名称と表示の切り換え

例：時刻・カレンダーモード



他のモードマークが点滅している場合は、そのモードが計測中であることを示しています。

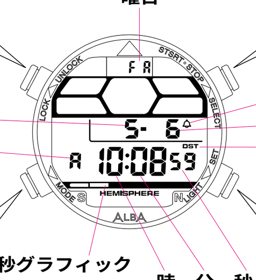
●ボタンⒶを押すごとに、つぎの順序で切り換わります。

時刻・カレンダーモード → コンパス（方位計）モード －MOON－ → クロノグラフモード －CHR－ → アラームモード －ALM－ → シグナルモード －SIG－

※操作確認音がセットされていますと、モードを切り換わるごとに「ピッ」と鳴ります。
「シグナルモード」から「時刻・カレンダーモード」に切り換わる所のみ音色が違います。
（操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。）

■時刻・カレンダーの合わせかた

●ボタンの名称とはたらき



●ボタンⒶを押して「時刻・カレンダーモード」状態にしてください。
①ボタンⒷを2～3秒間押し続けると、サマータイム表示（DST）とON（セット）または、OFF（解除）が点滅し「時刻・カレンダー合わせ」状態になります。
②ボタンⒸを１回押すごとに次の順序で合わせたいところ（点滅部）を選ぶことができます。
※年月日をセットすると「曜日」は自動的に設定されます。

ボタンⒸを押すたびに修正箇所が換わります。

サマータイム ON／OFF → 秒 → 分 → 時 → 日 → 月 → 年 → 12H／24H

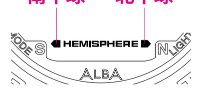
③ボタンⒹを押すたびにON（セット）または、OFF（解除）がくり返し表示し、選択できます。
サマータイム（DST）をONにセットすると「DST」が表示します。
※サマータイム実施期間中は、サマータイム（DST）をONにセットし、１時間進めてください。
④ボタンⒸを押して「秒」を点滅状態にし、時報と同時にボタンⒹを押すと「00」に合います。
※秒表示が30～59秒のとき、ボタンⒹを押すと１分繰り上がって「00」に合います。
※時刻合わせは電話の時報サービス（TEL.117）が便利です。
⑤合わせたいところを点滅させたあとボタンⒹを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。（「サマータイムON／OFF」「秒」「12H／24H」を除く。）
※ボタンⒹを押し続けると、早送りできます。
⑥「時刻・カレンダー合わせ」が終りましたら、ボタンⒷを１回押して「時刻・カレンダーモード」にもどしてください。押し忘れた場合でも２～３分後には「時刻・カレンダーモード」へ自動的にもどります。
※カレンダーは1994年から2043年までの年・月・日・曜日がプログラムされていますので、この間、月の大小や、うるう年でも修正する必要はありません。
※報時機能については、「アラームの使いかた」を参照してください。
※時刻修正の途中で「全点灯表示」になるのは、故障ではありません。ボタンⒸとボタンⒹが同時に押された状態です。その場合は、ⒶⒷⒸⒹいずれか１つのボタンを押して、「時刻・カレンダーモード」にもどしてください。つぎにあらためて、上記の①から合わせ直してください。

＝全点灯表示＝

■簡易コンパス（方位計）の使いかた

●この簡易コンパスは、従来の磁石式のコンパスとは異なり、時計の12時方向のDIRECTIONマークを太陽／月の方向に合わせて方位を探す方式です。
●ボタンの名称とはたらき（例：太陽コンパス）

※表示は「MOON」です。



――セットのしかた――

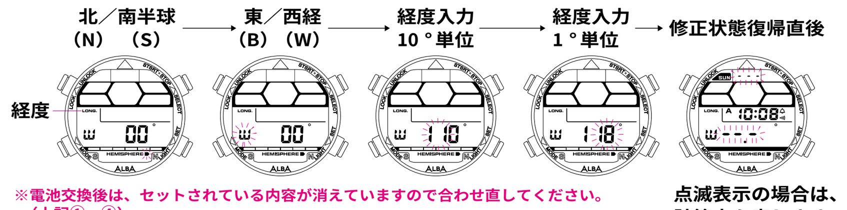
※「時刻・カレンダーモード」において、時刻が合っていることを確認してください。
（DSTが「ON」の場合コンパスの方位計算に含まれますのでご注意ください。）

●ボタンⒶを押して「コンパス（方位計）モード」にしてください。
①ボタンⒷを２～３秒押し続けると、北／南半球マークが点滅し「コンパス（方位計）合わせ」状態になります。（「LONG.」マーク点灯）※LONG.＝LONGITUDE（経度）
②ボタンⒸ１回押すごとに次の順序で合わせたいところ（点滅部）を選ぶことができます。

ボタンⒸを押すたびに修正箇所が換わります。

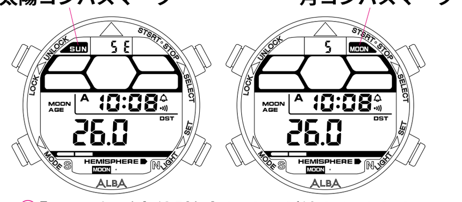
北／南半球（N）（S） → 東／西経（E）（W） → 経度入力 10°単位 → 経度入力 1°単位

③合わせたいところを点滅させたあとボタンⒹを１回押すごとに点滅している数字が1つずつ進みます。（「北／南半球」「東／西経」を除く。）
※経度入力10°単位および経度１°単位において、ボタンⒷを押し続けると、早送りできます。
④「各都市の経度」を参照の上セットしてください。
「例：ロサンゼルス（1994年５月６日　午前10:08　サマータイム）北半球　西経118°」

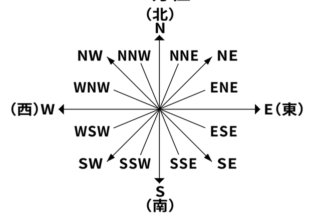


※電池交換後は、セットされている内容が消えていますので合わせ直してください。（上記①～④）

点滅表示の場合は、計算中を表します。



※太陽から月・月から太陽コンパスに表示を換えるときに、直ぐに表示しないことがあります。それは、計算中の表示で故障ではありません。



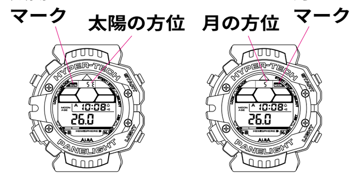
⑤「コンパス（方位計）合わせ」が終わりましたら、ボタンⒷを１回押して「コンパス（方位計）モード」にもどしてください。押し忘れてた場合でも２～３分後には「コンパス（方位計）モード」へ自動的にもどります。

＝ご注意事項＝

・太陽及び月が出ていない場合は、使用できません。
・年・月・日・時刻（時・分）・DST（ON／OFF）のいずれかが間違ってセットされているときは、正常に方位・月齢が表示されません。（特に電池交換後は、以前のデータが消えているのでご注意ください）
・使用する地域の選択（北半球／南半球）を間違えないように、再度ご確認の上ご使用ください。
・北回帰線と南回帰線の間にある地域では、太陽が真上にくることがあるため、方位は確認しづらく、従来の磁石式コンパスと併用でお使いください。
・北緯28.63°から南緯28.63°の間にある地域は、月が真上にくる可能性があるため、方位は確認しづらく、従来の磁石式コンパスと併用でお使いください。
・月コンパスは経度を合わせないと大幅に精度がおちます。太陽コンパスもより精度を上げるため必ず経度を合わせてご使用ください。
・旅行や引っ越しなどで大きく移動した場合は、その場所の経度をセットしませんと、太陽・月の方向と月の満ち欠け表示の精度がおちます。

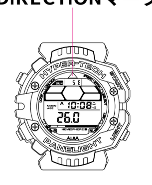
――使いかた――

①ボタンⒸで使用するコンパス（昼：太陽／夜：月）を選択する。



②時計の12時（DIRECTIONマーク）側を太陽の位置に合わせます。
［例］太陽コンパスを選択

DIRECTIONマーク



太陽の方向と表示された方位は一致しています。
時計は水平状態にしてください。

■世界の主な都市の経度

（単位は、四捨五入）

都市名	経度	都市名	経度	都市名	経度	都市名	経度
ロンドン	E 0°	ドバイ	E 55°	ナウルアイランド	E 166°	パナマシティ	W 80°
パリ	E 2°	カラチ	E 67°	ポートヴィラ	E 168°	デトロイト	W 83°
アムステルダム	E 5°	ダッカ	E 90°	クライストチャーチ	E 173°	シカゴ	W 88°
ミラノ	E 9°	バンコク	E 100°	ウェリントン	E 175°	ニューオリンズ	W 90°
フランクフルト	E 9°	クアラルンプール	E 102°	マドリード	W 4°	ヒューストン	W 95°
ハンブルグ	E 10°	シンガポール	E 104°	ダブリン	W 6°	ダラス	W 97°
ローマ	E 12°	プノンペン	E 105°	カサブランカ	W 8°	メキシコシティー	W 99°
ウイーン	E 16°	ハノイ	E 106°	リスボン	W 9°	デンバー	W 105°
ストックホルム	E 18°	ジャカルタ	E 107°	ダカール	W 17°	エルパソ	W 106°
アテネ	E 24°	香港	E 114°	アゾレス諸島	W 25°	エドモントン	W 114°
ヘルシンキ	E 25°	パース	E 116°	リオデジャネイロ	W 43°	ラスベガス	W 115°
イスタンブール	E 29°	上海	E 121°	サンパウロ	W 47°	ロサンゼルス	W 118°
カイロ	E 31°	マニラ	E 121°	ブラジリア	W 48°	サンフランシスコ	W 122°
ベイルート	E 35°	台北	E 122°	ブエノスアイレス	W 58°	シアトル	W 122°
ダマスカス	E 37°	平壌	E 126°	カラカス	W 67°	バンクーバー	W 123°
ナイロビ	E 37°	ソウル	E 127°	ボストン	W 71°	パビート	W 150°
ジェッダ	E 39°	東京	E 140°	サンチアゴ	W 71°	アンカレッジ	W 150°
アディスアベバ	E 39°	メルボルン	E 145°	ニューヨーク	W 74°	ホノルル	W 158°
クウエート	E 48°	グアム	E 145°	モントリオール	W 74°	パゴパゴ	W 171°
バーレーン	E 50°	シドニー	E 151°	リマ	W 77°		
アブダビ	E 54°	ヌメア	E 166°	マイアミ	W 80°		

●日本の主な都市の経度

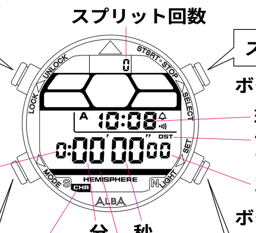
都市名	東経	都市名	東経	都市名	東経
釧路	144°	新潟・熱海	139°	岡山・高松	134°
帯広	143°	松本	138°	松山	133°
旭川	142°	名古屋	137°	下関	131°
札幌・仙台	141°	京都	136°	長崎	130°
秋田・東京	140°	明石・神戸	135°	那覇	128°

※日本の標準時は東経135°直下の明石を基準に定められています。経度入力は標準時と日本各地での天体との微妙な誤差を修正するためのものですが、時間帯の関係上、日本国内では東経128°～142°の範囲内で、使用する場所の経度に最も近い数値を入力してください。

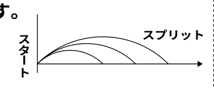
■ストップウオッチの使いかた

・1／100秒単位で10時間計測できます。
・最大計測時間は、９時間59分59秒99です。
・スプリット回数は、99回まで表示します。以降は100（表示：00）、101（表示：01）と順次表示します。

●ボタンの名称とはたらき



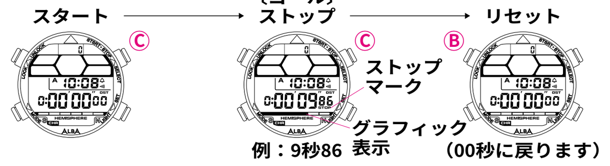
スプリットタイムは、スタートからある区間までの途中経過時間をさします。



※計測中のグラフィック表示は、点灯・非点灯をくり返します。（目安としてご使用ください。）

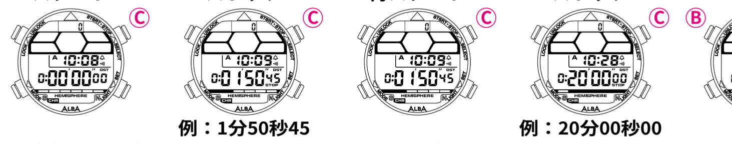
●ボタンⒶを押して「クロノグラフモード」にしてください。
●普通の使いかた
例：100mメートル競争（ボタンを押す順序：Ⓒ→Ⓒ→Ⓑ）

スタート →〔ゴール〕ストップ → リセット



●時間計測を積算でおこなう場合
例：バスケットボール（ボタンを押す順序：Ⓒ→Ⓒ→Ⓒ……→Ⓒ→Ⓑ）

〔競技開始〕スタート →〔競技中断〕ストップ →〔競技再開〕再スタート ……〔競技終了〕ストップ → リセット



※途中のストップ・再スタートは、何回でもくり返すことができます。

●スプリット計測をおこなう場合
例：10,000メートル競争（ボタンを押す順序：Ⓒ→Ⓑ／Ⓑ…→Ⓑ／Ⓑ→Ⓒ→Ⓑ）

スタート → スプリット／スプリット解除 …→ スプリット／スプリット解除 → ストップ → リセット
（1,000m区間）（2,000m区間）（10,000m）

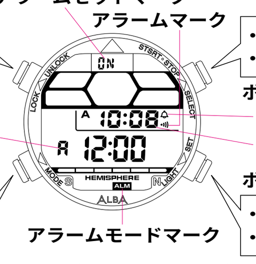
※途中のスプリット／スプリット解除は、何回でもくり返すことができます。
スプリット回数は、99回まで表示します。
以降は100（表示：00）、101（表示：01）と順次表示します。

●計測中に他の表示（モード）に切り換えても正常に作動していますが、計測していない場合は電池寿命が短くなりますので作動を停止させてください。

■アラームの使いかた

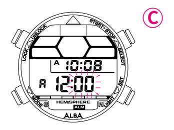
・デイリーアラーム付きです。（デイリーアラーム：毎日、1日1回設定時刻にアラームが鳴る機能（24時間制））
・アラームのON（セット）／OFF（解除）切り換えができます。

●ボタンの名称とはたらき

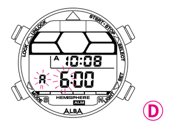


●ボタンⒶを押して「アラームモード」にしてください。
①ボタンⒷを2～3秒間押し続けるとONまたは、OFF表示が消え、「時」が点滅表示し「アラーム時刻合わせ状態」になります。

②ボタンⒸを押しますと、押すたびに「時」と「分」が交互に点滅表示します。修正する箇所を選択してください。



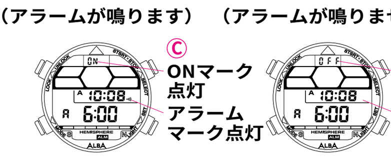
③合わせたいところを点滅させたら、ボタンⒹを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。



※ボタンⒹを押し続けると、早送りできます。
※12時間制の場合は、A／P（午前／午後）に注意して合せてください。
※アラーム表示の12H／24Hは、「時刻・カレンダーモード」の12H／24Hに連動しています。

④セットが終りましたらボタンⒷを押して「アラームモード」に戻してください。アラームマークとセット（ON）マークが点灯します。押し忘れた場合でも２～３分後には「アラームモード」へ自動的に戻ります。

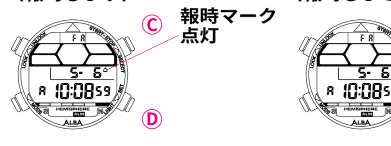
●アラームを鳴らしたいとき、鳴らしたくないとき。
※「アラームモード」でボタンⒸを押すごとに、セット（ON）と解除（OFF）ができます。
例）
（アラームが鳴ります）（アラームが鳴りません）



●鳴っているアラームを止めるには。
※アラームはセットした時刻になると、20秒間鳴り続けます。鳴っているアラームを止めたい時は、ボタンⒶⒷⒸⒹいずれか１つのボタンを押してください。

●アラーム音の試し聴き（サウンドデモンストレーション）と報時並びに操作確認音のセットと解除をするとき。
※「時刻・カレンダーモード」でボタンⒸを押すごとに、報時・操作確認音のセットと解除ができます。また、ボタンⒸとⒹを同時に押し続けると「アラーム音の試し聴き」ができます。

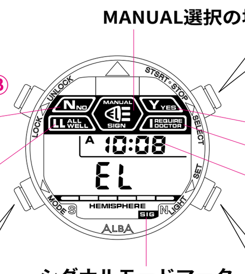
（報時します）（報時しません）



※報時マークを「点灯」した状態では毎正時の報時と操作確認音が鳴り、「消灯」した状態では報時と操作確認音は鳴りません。

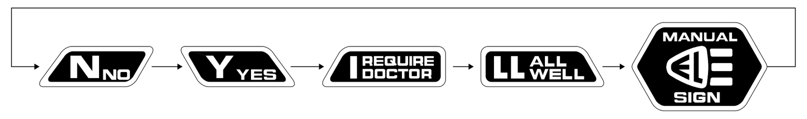
■シグナルの使いかた

●ボタンの名称とはたらき



●ボタンⒶを押して「シグナルモード」にしてください。
①ボタンⒸを押し使用するメッセージモードを選んでください。

ボタンⒸを押すたびにメッセージモードが換わります。



②ボタンⒹを１回押しますと選んだメッセージに対応した点滅（発光）を１回します。
※ボタンⒹを押し続けると、発信をくり返します。
※メッセージを発信途中でボタンⒹを放した場合、選んだメッセージは終わりまで発信します。
※メッセージモードがMANUALのときは、ボタンⒹを押すと点灯し放すと消灯します。任意のメッセージが発信できます。

・メッセージの発光パターン（モールスシグナル）

メッセージ	意　味		発光タイミング（モールスシグナル）	点灯時間
N	NO	（否定）　いいえ	— –（N） — — —（O）	3.2秒
Y	YES	（肯定）　はい	— – — —（Y） –（E） – – –（S）	3.0秒
I	REQUIRE DOCTOR	重傷者あり、医師の派遣を求む	— – –（D） — — —（O） — – — –（C） —（T） — — —（O） – — –（R）	9.0秒
LL	ALL WELL	全て順調	– — —（W） –（E） – — – –（L） – — – –（L）	4.0秒
――	MANUAL	――	押している間のみ点灯	――

※発光タイミング：—　点灯時間が長い
–　〃　が短い

＝ご注意事項＝

・シグナル機能は、救難信号発信器ではありませんので、救命用・非常用等の信号としてのご使用はできません。距離や角度、周囲の明るさによっては信号が届きません。

〔参考〕一般的には、メッセージモードを下記の方法で知らせる手段としています。

救難信号について一口メモ

万一、遭難した場合など、捜索機（者）に対して地面にこのサインを描きます。大きさは10m四方以上。文字の天地は南北にします。雪上においては、溝を掘るか盛り上げて陰影で読ませます。体力がない場合は、衣服や装備を使います。まわりに草や木や石がある場合は、それを使います。
救難活動では飛行機側からは、拡声器、通信筒を使用して地上に連絡をとることができますが、遭難者側からの返事が困難とされています。しかし、答え方さえ知っていれば、適切な救助が受けられるわけです。